

1 題材名 「トイレットペーパーであそぼう」

2 題材の目標

- ・トイレットペーパーの感触を味わい、体全体で造形的な活動に取り組もうとしている。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・自分の感覚や気持ちをもとに、造形的な活動を思い付いている。(発想や構想の能力)
- ・思い付いたことを試しながら、材料を用いて表し方の工夫をしている。(創造的な技能)
- ・自分が感じたことを友達に話したり、友達の話の話を聞いたりして活動の楽しさを感じている。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材は、体全体で思い付くままに材料に働きかけ、そこから感じたことや見つけたことを表現していく「材料をもとに造形遊びをする」学習である。今回、材料として子どもたちにとって身近なトイレットペーパーを選んだ。児童が家から持ってくるトイレットペーパーはそれぞれ材質や色などが違っていると予想できる。友達のものと比較することで、触りごちのの違いを感じ、楽しむことができる。また、水や絵の具、洗濯のりを加えることで、感触や色が変わるおもしろさも加わるだろう。それと同時に、子どもたちの発想も広げ、どんどん思い付いたものを表現しやすい題材である。

その上、普段は使い方や使う量を制限されているので、ペーパーで「引っ張る」「巻く」「破る」等の活動は、子どもたちがわくわくしながら思いのままに活動できると考える。普段できない行為を授業の中で行うことで、一人一人の意欲的な活動を引き出し、友達と一緒にのびのびと楽しく活動する喜びを味わわせたい。

4 児童について

男子12名、女子17名、計29名のクラスである。入学して2ヶ月が過ぎ、学校生活にも慣れ、落ち着いて話を聞いて学習に臨めるようになってきた。新しいことにとっても興味を示し、「もっと知りたい」「もっとやりたい」という意欲が高い。また、友達を思いやる心があり、助け合ったり困っている子に対して優しい言葉をかけ合ったりする姿が見られる。

これまで図画工作の時間では、絵を描く、粘土、はさみを使った活動を行ってきた。絵で表す活動の「すきなものなあに」では、クレヨンやクーピーの色を楽しみ、友達と語り合いながら楽しく描いていた子がいる一方で、何を描けばよいのか分からず、手が止まってしまう子もいた。粘土を用いた造形遊びでは、丸めたり、ねじったり、ちぎったりしながら思い思いの形を作っていた。しかし、全部の粘土を使ってもよいのだと伝えても、粘土を少しずつしか使わず、のびのびと表現できない子も見られた。

5 指導について

指導にあたっては、どの子も思いのままにトイレットペーパーを使い、体全体で楽しむことができるようにしたい。そのために、体全体を使って、感触や材質、触りごちをたっぷり味わう活動を段階的に取り入れていきたい。まず、両手を十分に働かせてトイレットペーパーの触りごちを感じさせる時間をとる。机の上という限られた場所で遊び方を考えさせる。次に、思い切り体全体を使った遊び方を考え、のびのびと楽しく遊ぶ時間を設ける。最後に、水や洗濯のりを加えることで触りごちが変化したことを楽しみながらパルプ粘土作りを行っていきたい。

本時では、子どもたちがのびのびと活動できるよう教室の机を出し、遊ぶ空間を広げたい。また、思い切り楽しむために一人に1個のトイレットペーパーを準備させる。さらに、頭上に垂らすためのひもを張ったり、トイレットペーパーホルダーのように固定されている状態から

引っ張ったりできるような場所を用意するなどの工夫を行う。粘土を用いた造形遊びにおいても、のびのびと表現しにくい子も見られたのでどのように体全体を使って遊んだらよいか分からない子には、教師と一緒に体を使って遊ぶなどして、意欲的な活動を引き出していきたい。

6 指導計画（4時間配当）

- 第1次 ペーパーを触って遊ぼう。（1時間）
 体全体を使った遊び方を考えよう。（1時間 本時）
 第2次 パルプ粘土を作ろう。（2時間）

7 本時の目標

- ・トイレットペーパーを使った遊び方を工夫し、みんなで楽しむことができる。

8 準備物

- 教師・・・トイレットペーパー、ひも、ホルダー用棒、遊び方カード
 児童・・・トイレットペーパー

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○前時の活動を振り返り、本時の課題を確認する。 ・積む ・結ぶ ・丸める ・ちぎる ・飛ばす たのしいあそびかたをみつけて、やってみよう	・遊び方カードを出しながら前時の遊び方を振り返る。
○やりたい遊び方を発表する。 ・巻き付ける ・転がす ・山にする ・広げる ・寝っ転がる	・両手だけでなく、体全体を使って遊ぶことを強調する。 ・前時にはなかった道具を使ってもよいことを伝える。
○トイレットペーパーで遊ぶ。 ・ひもにトイレットペーパーを垂らして、その下をくぐり抜けたいな。 ・ぐるぐるにしてミイラみたいにするぞ。 ・トイレットペーパーをじゅうたんみたいにしよう。	・のびのび遊ぶことができない子には遊び方を提示する。 ・走らない、ロールごと投げない、ペアで活動するなどの約束を確認する。 ☆友達と交流しながら発想を広げ、様々な遊び方を思い付き、思い思いの作品を作っている。 （行動観察…発想）
○考えた遊び方を発表する。 ・わたしと同じだ。 ・あんなこともできるんだ。やってみたいな。 ・わたしがやったことと合体してみたいな。	・工夫したことや思いのままに遊んだことを賞賛する。
○友達が考えた遊び方で遊ぶ。	・友達と一緒に活動しているような時は賞賛し、活動が広がることに気付かせる。
○活動を振り返り、次時の活動を知る。 ・たくさん遊び方を見つけたよ。 ・ミイラが楽しかった。	・パルプ粘土作りをすることを伝える。

10 授業の観点

- ・トイレットペーパーを使ったことは、児童の意欲を高め、豊かな発想を引き出すために有効であったか。